



# 現代の PLM を探る

コラボレーションを戦略的な優先事項に

組織は、複雑さを増す自社の製品ラインの管理と格闘しています。ほぼすべての製造メーカーが、製品ライフサイクルのシステムとプロセスの、連携性のない分断された環境を制御することに苦慮しています。実際、企業の 45 ~ 50 % が製品の複雑さに悩まされており、それは年間に発売する製品が 1 つでも数百でも変わりません。

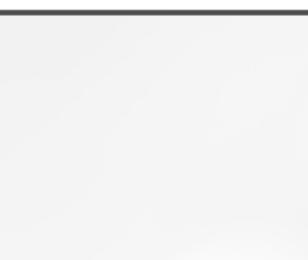
## 統合ビュー

一流企業は、関係者が部門をまたいで複数のシステムのデータとプロセスにアクセスし、企業全体を網羅した製品データとプロセスについて共通の理解、つまり 1 つの統合ビューを共有できたとき、大幅な改善が実現することを認識しています。



## コラボレーション戦略

システム データを一元的に把握することで、シームレスなチーム コラボレーションが実現します。「優良企業」は「その他」に比べて、以下の 3 つの領域全体でコラボレーションを行う割合が 43 % 高くなっています。



**79 %** | **72 %**  
優良企業 | その他



**77 %** | **54 %**  
優良企業 | その他



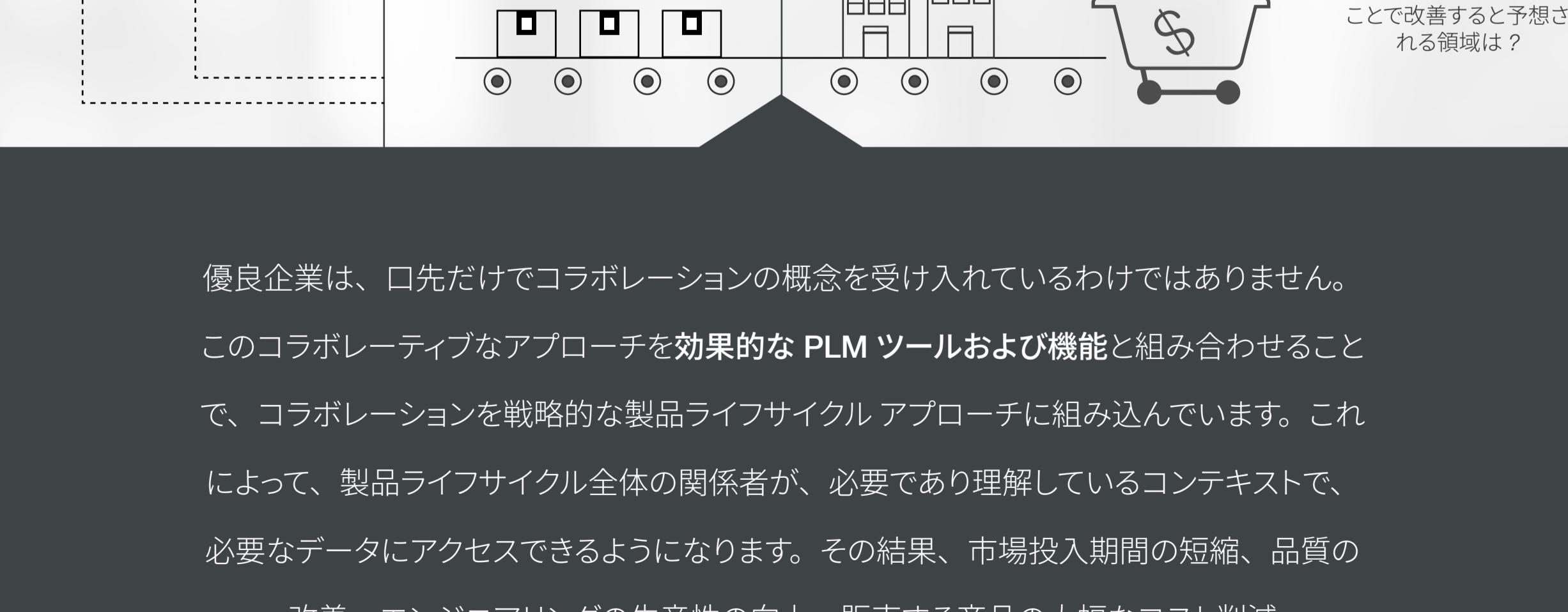
**62 %** | **53 %**  
優良企業 | その他

◆ 御社でのコラボレーション手法は？



## コラボレーションの利点

こうした広範なコラボレーションの取り組みは、優良企業に以下のような利点をもたらします。



優良企業は、口先だけでコラボレーションの概念を受け入れているわけではありません。

このコラボレーティブなアプローチを効果的な PLM ツールおよび機能と組み合わせることで、コラボレーションを戦略的な製品ライフサイクルアプローチに組み込んでいます。これによって、製品ライフサイクル全体の関係者が、必要であり理解しているコンテキストで、必要なデータにアクセスできるようになります。その結果、市場投入期間の短縮、品質の

改善、エンジニアリングの生産性の向上、販売する商品の大変なコスト削減

といった、大きな成果を達成できます。

詳細はこちら ➤